

国際交流員の
活動日誌

vol.70



餌をついばむアオカケス

「野鳥の餌台」 Birdfeeders

年末年始に、多くの家族が実家に集まり、おせち料理などを食べながら大切な時間を過ごすと思います。子どもの時、僕の家族は集まると窓から野鳥を一緒に見ました。寒い外、多彩な鳥は僕たちが置いた餌台にとまって、中の種などの餌をうれしそうに食べました。冬毛で膨らんだ小鸟を夢中で見ていた僕たちには、暖かい室内がよりポカポカと感じられました。

野鳥の餌付けは米国で2番目に人気のある趣味で、半分ほどの家庭には野鳥の餌台があります。餌台はいろいろな

形があり、餌もさまざまですが、ひまわりなどの種が基本です。そして餌によって別の種類の小鳥を引き付けることもできますが、米国ではアトリやアオカケスはよく食べに来ます。

意外とおもしろい趣味なのに、日本ではあまり流行していません。鳥が集まる所はすぐ汚くなりますし、餌台は定期的な掃除が必要だからかもしれない。そして果物の王国である福島県では、野鳥を引き付けるより、果樹園から退散させる方が大切です。果樹のない僕の庭では野鳥を歓迎したいところですが、餌台を置くのは遠慮します。その代わり、庭で餌になる植物を育てて、鳥に植物から直接食べてもらいたいです。まだまだおいしい作物が育てられない僕ですが、かわいい小鳥が庭の実りをおいしく食べてくれるとうれしいです！

(トニ)

地域の魅力
ふる里再発見松前・梁川藩から館藩へ - 5 -
～館藩とは～

令和4年度第2回企画展

松前・梁川藩から館藩へ

12/26日まで

伊達市保原歴史文化資料館

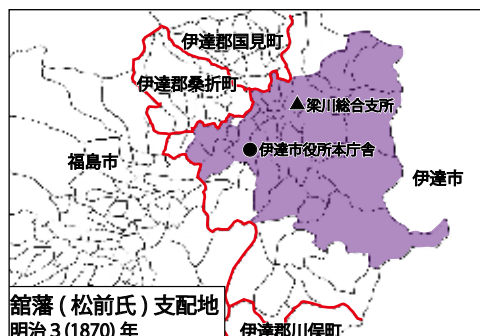
北海道松前から梁川へ移封された松前氏は、文政4(1821)年に松前に復領を果たしました。

その後、安政2(1855)年に北海道の所領が一部幕府の直轄領となり、陸奥国梁川と出羽国村山郡東根(山形県東根市)に合わせて3万石が与えられ、さらに出羽国村山郡尾花沢(山形県尾花沢市)の1万4000石が預地となり「館藩」が成立します。

藩名の由来は京都の朝廷から西部厚沢部村(北海道檜山郡厚沢部町)の館に城を造ることを許されたことによります。しかし館城の完成前に戊辰戦争(箱館戦争)が始まったため、館藩となった当初は以前と同じく松前町福山城に本拠地が置かれたままでした。

明治2(1869)年6月24日、14代藩主松前脩広は版籍奉還を願い出て許され、館知藩事に任じられました。

明治4(1871)年7

館藩(松前氏)支配地
明治3(1870)年

月14日に廃藩置県で館県になるまで、館藩は2年間存続しました。館県の範囲は、渡島国(北海道)に属する爾志郡・檜山郡・津軽郡・福島郡の4郡でしたが、同年9月に館県は道外の弘前県・黒石県・斗南県・七戸県・八戸県と合併し、弘前県(のちの青森県)の一部となり消滅しました。伊達は戊辰戦争後、旧棚倉や旧刈谷藩、桑折代官所の支配地だった土地が館藩の支配に変わり、弘前県、青森県、二本松県を経て福島県へと変遷しました。

※預地：幕府から管理を委託された幕府直轄地